

Youth Sailing



Japan Junior Yacht Club Union

ユースセーリング

[ジュニアヨット指導書]

No. 85

国際交流

日本ジュニアヨットクラブ競技会

2016 in 若洲 ...2

第25回

ジュニアヨット国際親善東京レガッタ
(ミキハウスカップ東京2015) ...6

第4回

ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ
(ミキハウスカップ大阪2015) ...10

YSクローズアップ

第4回ジュニアヨットクラブジャンボリー

2016 in 浜名湖 ...14

2015年度海外セーリング研修報告

(シンガポール、タイ、パース) ...16

いわきジュニアヨットクラブへの

出前コーチ報告...19

特集／三回連載

ジュニアヨットクラブの
指導者・コーチの皆さんへ 第2回

(一社)日本ジュニアヨットクラブ連盟 副会長 安井清 ...20

発行日／2017.3.20

発行／一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

発行人／伊藤雅宣

編集人／岸野 寛、葛西信一

事務局／〒182-0004 東京都調布市入間町3-20-5

TEL: 03-6277-9641 FAX: 03-6277-9646

e-mail: jjyacht@jjyu.net

巻頭言／ジュニアヨットクラブの活動に寄せて

NPO法人KYG協会 理事長 宇住晃治 ...1

JJYU NOTICE BOARD 平成28年度連盟会長表彰、他 ...24

健康づくりのために 今すぐ始められること。

健康づくりのきっかけとして、気軽に受けられるKYG協会の検査サービスや教育講座をご活用ください。



食事の栄養バランスや食生活の改善点を個別にコンサルティング

お食事栄養診断

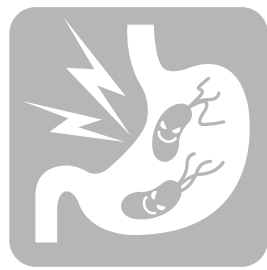
3日分の食事内容より栄養素の摂取状況などを管理栄養士が診断し、診断報告書と、栄養バランスや食生活などの改善ポイントをまとめたアドバイスシートを作成します。

【診断項目】※診断項目は予告なく変更することがあります。

- ◆エネルギー診断 BMI、エネルギー産生栄養素バランス
- ◆栄養バランス診断 脂肪酸、ビタミン、ミネラル・食塩、食物繊維摂取量
- ◆摂取品目診断 穀類、いも類、豆類、魚介類、肉類、卵類、乳類、緑黄色野菜、きのこ類、海藻類など18食品群の摂取状況

〈診断の流れ〉

- 1 食事日誌を提出
3日分のお食事の内容を食事日誌に記入して提出してください。
- 2 栄養診断
管理栄養士が食事の栄養バランスやエネルギーバランスなどを診断します。
- 3 診断報告書郵送
診断報告書と、栄養バランスや食生活などの改善ポイントをまとめたアドバイスシートをお送りします。



ピロリ菌感染で胃がんリスクは5.1倍に
検査と除菌で胃がん予防

ピロリ菌検査キット (郵送血液検査)

検査キットを使用し、一滴の血液を採取。胃がんの原因といわれるピロリ菌感染のチェックができます。

検査項目：ヘリコバクターピロリ菌抗体検査

〈検査の流れ〉

- 1 検査のお申し込み
申込書にご記入してFAXまたは郵送でお申し込みください。
- 2 血液検体の採取・返送
検査キットを使用し、ご自宅で血液を採取。返信用封筒にて検体を返送してください。
- 3 検査結果報告
検体返送後、約1週間で検査報告書をお送りします。



遺伝子を知るともっと自分のことが見えてくる

遺伝子診断

発ガン物質感受性／アルコール感受性／肥満体質／塩分感受性



生活習慣病を引き起こす危険因子に関する体質を遺伝子のタイプより判定します。



遺伝子栄養学の基礎を学ぶ

KYG栄養カウンセラー 養成講座(通信教育講座)

遺伝子の仕組みや核酸の働きなど、遺伝子栄養学の基礎を学ぶ講座です。修了後はKYG栄養カウンセラーに認定されます。



生活習慣病の簡単セルフチェック

生活習慣病+糖尿病セルフチェック (郵送血液検査)



自宅で行なう郵送型の検査です。指先から一滴の血液を採取するだけで生活習慣病のセルフチェックができます。



体内の酸化ストレスレベルを測定

遺伝子酸化損傷検査



DNA酸化物「8-OHdG」を測定し、生活習慣病や老化の原因となる体内の酸化ストレスレベルを測定します。

巻頭言

ジュニアヨットクラブの

活動に寄せて



NPO法人
KYG協会

理事長 宇住晃治

子供達の人格育成とヨット競技の普及活動にたゆまぬご努力をされている関係者の皆様、ならびにその活動を支えられている読者・保護者の皆様のご熱意に深く敬意を表します。

私は、長年、予防医学の研究とその研究成果を人々の健康作りに役立てるための活動を行っております。私自身もヨットが大好きで、学生時代はディンギーではホビーキャットやクォータートンのクルーザーに乗っていましたが、ここ20年位は専用のクルーザーを所有し、ヨットライフを楽しんでいます。

最近は医学も飛躍的に進歩し、特に遺伝子レベルあるいは大脳生理学等の進歩により、脳の働きと健康との関係が注目されています。今や「スマホ文化」とも言えるような親が全く経験したことのない環境に変化しています。幼少期からこのような環境に育ち、大自然の中で、思いっきり遊ぶということはほとんどなく、室内でのスマホやゲームなどに費やす時間が多い子供達の教育や健康を考えると非常に懸念される状況です。

体の恒常性維持を担う自律神経は幼少時は未発達で、遊びや睡眠、気温(寒暖差)など自然環境の中での様々な経験を通じて鍛えられるもので、現在のような環境の中では子供達の自律神経も弱まってしまいます。自律神経は免疫とも密接に関連していることから、子供達の将来の健康にも悪影響を与えるものと危惧されます。

また、脳もさまざまな環境の刺激や色々な情報を分析してそれに対応する方法などを常に学習しながら発達しますが、室内にこもる時間が多い現代においては脳が果たしてどれだけ鍛えられるかは非常に不安に思う所です。

このような社会環境の中、子供達がヨットに触れあえるということは私の危惧することのひとつの解決策になると思います。

また、ヨット競技が国際大会を通して、グローバルな試合や自然との触れあいの中で環境までも意識できるような素晴らしい機会を提供されることを期待しています。

私は、こうした経験の積み重ねが健康な体や脳を作り、やがては豊かな人生作りにも繋がると信じていますし、私自身も今、大いに人生を楽しんでいるところです。

また、親の役割が子供の教育に大きな影響を与えることは自明の理ですが急速に進む少子化社会の中では子供達に対する過剰・偏愛的な関与は独立心を失わせることにもなりますので、注意することが大事だと思います。また、保護者の皆様もヨットの経験の有無に関わらず、子供達と一緒に大自然の中でのヨット教育の楽しさや素晴らしさを経験して欲しいと思います。

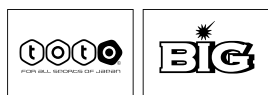
今後とも、ジュニアヨットクラブの活動が広く認知され、多くの子供達が参加し、貴連盟がますます発展されますことをお祈りしております。

資料請求・
お問い合わせは

KYG協会まで

TEL.03-3400-3601〔平日9:00~18:00〕

特定非営利活動法人 KYG協会
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-6-6 ライフサイエンスビル9F



国際交流日本ジュニア ヨットクラブ競技会 2016

2016年8月5日～8月7日
東京都立若洲海浜公園
ヨット訓練所

東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016

(主催：一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟 (JJYU)、共催：公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、東京都ヨット連盟) が、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所において8月5日～7日の3日間開催されました。

8月5日に行われた開会式では、主催者を代表して佐藤精知夫 (JJYU 会長代行) が挨拶を行い、ご来賓を代表して江東区長山崎孝明様および東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部国際



山中湖宣言：小山すみれさん・池田ももかさん・渡邊信幸君 (江東区立小中学校セーリング部)、菅野ころさん・菅野響君・宮本あかりさん (夢の島ヨットクラブ)



選手宣誓：吉田奈織さん・荒木智也君 (江東区立小中学校セーリング部)、重松俊君 (夢の島ヨットクラブ)

大会準備担当課長原陽一郎様からお言葉を頂戴しました。

そして江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの3名 (吉田奈織さん、荒木智也君、重松俊君) が力強い選手宣誓を行い、3日間に渡る真夏の大会が幕を開けました。

開会式に引き続き、同じ会場で国際交流会が開催されました。海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介とプログラ

ムが進むうちに、ステージ上では小林太郎様他2名による和太鼓演奏が始まりました。参加者たちはしばしのあいだ食事

も忘れ、迫力のある太鼓の響きに聞き入っていました。演奏のあとは、選手たちもステージに上がりバチを手にリズムカルに太鼓の音を響かせていました。

競技会は A 海面 (OP 級上級者、レーザー 4.7、国際 420 級、FJ 級) と B 海面 (OP 級初級者) に分かれてレースが実施



OP 級初級者スタートシーン

されました。両コースともに潮や荒川の流れに加え、安定しない風の影響で選手だけでなく運営スタッフもコース設定に苦労していましたが、何とか無事に二日間の競技を終了することができました。

最終日の8月7日 (日)、全競技終了後に閉会式が開催されました。成績発表および表彰ではクラス別の個人表彰、団体表彰、JJYU 会長特別賞の入賞者が発表されました。シーマンシップ溢れる選手、指導者またはクラブを表彰する大会最高の栄誉である小澤吉太郎特別賞は、秋山翔君 (浅虫ジュニアヨットクラブ) が獲得しました。

海外チーム指導者代表、ニュージーランドのトーマー・シンホニーさんが挨拶



小澤吉太郎特別賞
秋山翔君
(浅虫ジュニアヨットクラブ)



文部科学大臣賞状・賞杯
「奥村純雄杯」OP 級上級者
大澤 雄帆君 (葉山町セーリング協会)

「国土交通大臣賞状・賞杯」
「小澤吉太郎杯」OP 級初級者
西田 帆七
(葉山町セーリング協会)



国内個人対抗レース
FJ 級入賞者



国内個人対抗レース OP 級初級者入賞者



国内個人対抗レース OP 級上級者入賞者



国内個人対抗レース 国際 420 級入賞者



オーストラリアチーム



ロシアチーム



国際交流
会場風景



和太鼓演武



韓国チーム



OP 級上級者レース風景



国際 420 級レース風景



レーザー 4.7 レース風景



シンガポールチーム



タイチーム



ニュージーランドチーム



香港チーム

トピックス

競技会を後援いただいた東京都の都民還元事業として8月6日に親子体験試乗会・ヨットレース観戦会を行いました。当日は15家族31名がギグ2艇、ピクニックキャット1艇に交替で乗船し、セーリングを楽しみながらレースを観戦していました。



文部科学大臣杯・国土交通大臣杯

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016

実施報告

実行委員長
一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟
理事 塩野崎 英二



はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016 は、全国のジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いながら、国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨きその視野をひろげることを期して実施しました。

本年は海外から招待のロシア、韓国、香港、シンガポール、タイ、ニュージーランド、オーストラリアの 7 クラブと、国内では北は北海道室蘭から南は鳥取県までの 16 クラブを迎えて開催しました。

開会式

初日はトライアルレースに引き続きホテルマリナーズコート東京を会場に開会式が行われました。ジュニアセーラーの歌を BGM に選手が入場整列、競技会委員長の JJYU 伊藤雅宣事務理事の競技会開会宣言の後、国旗掲揚、特別賞杯返還とレプリカが授与されました。続いて競技会副会長である JJYU 佐藤精知夫副会長の挨拶、そしてご来賓を代表して江東区長山崎孝明様、および東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部国際大会準備担当課長原陽一郎様から激励のお言葉を頂戴致しました。最後に少年ヨット憲章「山中湖宣言」を、江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの 6 名(小山すみれ、池田ももか、渡邊信幸、菅野こころ、菅野響、宮本あかり)、選手宣誓を江東区立小中学校セーリング部と夢の島ヨットクラブの 3 名(吉田奈織、荒木智也、重松俊)の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

国際交流会

開会式に引き続き国際交流会が開催されました、参加者たちは食事を楽しみながら、記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げていました。またアトラクションは小林太郎様他 2 名による和太鼓演武が行われ、和風の演出で国際交流が出来た素晴らしい前夜祭となりました。

A 海面のレース状況

■ 8 月 6 日 (土) レース初日

8:55 D 旗掲揚。風向 190-200° 6-8knt

と良いコンディションでしたが、レース艇が海面に集まる頃には、少しずつ弱くなっていきました。第一レースは、10:00 に国際 420 級 /FJ 級がスタート。引き続きレーザー 4.7 が 2 度のゼネラルリコール後にスタート。最後に OP 級上級者クラスがゼネラルリコールの後、準備信号 U 旗掲揚のもと、9 艇の UFD 発生とともにスタート。スタート後、風向は徐々に東にシフトし、風速も弱まった為、各クラスともにコース短縮となりました。第 1 レース終了後、気温の上昇と共に風が弱まったため、ハーバーバックとしました。

12:55 180° 6-8knt 風が出てきたため再度 D 旗掲揚。

13:42 国際 420 級 /FJ 級からスタート。レーザー 4.7 まではオールクリアにてスタートした後、OP 級上級者クラスが潮と風向の変化によりゼネラルリコールを繰り返し、6 回目でようやくオールクリアにてスタートしました。

14:42 国際 420 級 /FJ 級、引き続きレーザー 4.7 がスタートしました。OP 級上級者クラスは 15:32 にオールクリアにてスタートしました。OP 級上級者クラスの最終艇フィニッシュが 16 時を越えた為、競技会初日のレースは各クラス 3 レース実施にて終了しました。

■ 8 月 7 日 (日) レース 2 日目

昨日と同じく気温 25-30℃、終日快晴のなか、台風の接近も懸念されましたが、ほぼ影響なく 9:45 に D 旗掲揚。しかし昨日にも増して潮流が速くコース設定に苦慮しました。

9:38 風向 100°、風速 7knt で、国際 420 級 /FJ 級、続いて 9:43 レーザー 4.7 がスタート。昨日同様 OP 級上級者クラスではゼネラルリコールに苦しめられましたが、10:04 にスタート。東のシフティーな風と強烈な潮流で、順位の入れ替わりも激しいレース展開となりました。第 5 レースは、国際 420 級 /FJ 級が 11:19 スタート、OP 級上級者クラスは 11:24 スタート。比較的安定した風でこれから本番の戦いとしたいところでしたが、最終予告信号 12:00 には次のレースは間に合わないため、第 5 レースにて今競技会は終了となりました。

B 海面のレース状況

予選は選手達を 4 デイビジョンに分け、2 つのデイビジョン同士が対戦し、計 6 レースで結果を出すこととしました。決勝は、予選の結果の上位 13 艇と下位 15 艇に分け、最初に下位 15 艇が 2 レースを行い、次にそのトップ 3 艇と予選の上位 13 艇の計 16 艇で 2 レース

を行って最終順位をつけることとしました。

■ 8 月 6 日 (土) 予選

第 1 レースを 10:10 に三角コースでスタートしました。潮の影響を受けて帆走が十分にできない艇も出ましたが、1 レース目は無事終了しました。2 レース目を 10:50 にスタートさせましたが、次第に潮の影響を受け航路側に流される艇が多くなるなどしたため、止む無く安全確保の観点から本レースをノーレースとしました。全艇を陸上に戻して待機とし、昼食時間としました。その後潮どまりとなり、第 2 レースを 12:50 に再スタート。以降は次第に安定した風となり、第 6 レースまで順調に消化しました。

■ 8 月 7 日 (日) 決勝戦

予選結果の下位 15 艇と上位 13 艇に分け、潮の影響を避けるためにコースをボンドの内側に寄せることにしてマーク設置を行いました。

第 1 レースは 9:49 に予選下位グループの 15 艇をスタートさせました。やはり潮の影響を受けて、十分に帆走できない艇もあり、3 艇がタイムリミットとなりました。続けて同じグループでレースを行い、上位 3 艇を残し、他 12 艇は陸上に戻しました。決勝戦は 16 艇で 2 回行いましたが、さすがに上位グループだけあって、安定した走りをみせ、風速も上がったこともあり、2 レースともに 10 前後で終了しました。特筆すべきは、予選 18 位の YMFS ジュニアヨットスクール葉山の菅原なな選手が 6 位に入賞したことです。

開会式

まず始めに高橋祐司競技会副委員長による成績発表及び表彰に続き、高橋有樹プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。その後各賞の表彰が行われ、昨年度から新たに設けられました小澤吉太郎先生の教えに沿うシーマンシップを称える特別賞には秋山 翔君(浅虫ジュニアヨットクラブ)が選ばれました。また海外チーム指導者代表としてニュージーランドのトーマー・シンホニーさんにご挨拶を頂きました。最後に国旗降納と高橋祐司競技会副委員長の競技会終了宣言で、3 日間にわたる大会を無事に終える事が出来ました。

今回の競技会について各国コーチ・父兄からは日本側のおもてなし・レースの運営等とても素晴らしいものであったとの感想を頂き、各国ともに来年もぜひ参加したいとの言葉を残してご帰国されました。

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2016 成績 (抄)														平成 28 年 8 月 5 日～7 日 東京都若洲海浜公園ヨット訓練所	
OP 級上級者 参加艇数 56 艇															
氏名	セール No.	所属クラブ名	1R		2R		3R		4R		5R		合計得点	総合順位	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点			
Patihan Vorrasart	777	Thailand タイ	5	5	1	1	1	1	9	9	1	1	17	1	
Shawn Goh Aik Swee	4575	Singapore シンガポール	7	7	2	2	2	2	2	2	5	5	18	2	
大澤 雄帆	3168	葉山町セーリング協会	9	9	14	14	4	4	1	1	2	2	30	3	
星野 高輝	3297	Y MFS ジュニアヨットスクール葉山	1	1	4	4	3	3	18	18	13	13	39	4	
Nathan Vince	4631	New Zealand ニュージーランド	6	6	3	3	10	10	12	12	9	9	40	5	
Henry Angus	4544	New Zealand ニュージーランド	15	15	9	9	6	6	5	5	7	7	42	6	
西村 拓真	3307	横浜ジュニアヨットクラブ	19	19	6	6	8	8	22	22	3	3	58	7	
重松 駿	3176	夢の島ヨットクラブ	27	27	5	5	12	12	4	4	26	26	74	8	
Lysovitskiy Mark	5	Russia ロシア	20	20	22	22	17	17	11	11	4	4	74	9	
中島 優揮	3246	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	21	21	10	10	9	9	27	27	10	10	77	10	
Uliyana Liubimova	555	Russia ロシア	16	16	23	23	22	22	21	21	11	11	93	11	
須永 笑顔	3301	Y MFS ジュニアヨットスクール葉山	UFD	57	8	8	7	7	10	10	12	12	94	12	
Lumiere Ng	313	Hong Kong 香港	8	8	41	41	20	20	20	20	6	6	95	13	
重松 陽	3352	夢の島ヨットクラブ	UFD	57	7	7	5	5	3	3	25	25	97	14	
園村 浩輔	3299	Y MFS ジュニアヨットスクール葉山	2	2	11	11	28	28	13	13	50	50	104	15	
菅野 響	3184	夢の島ヨットクラブ	28	28	12	12	26	26	17	17	22	22	105	16	
Lachlan Hawkins	589	Australia オーストラリア	26	26	13	13	35	35	8	8	29	29	111	17	
後藤 凜子	3170	葉山町セーリング協会	31	31	16	16	23	23	14	14	28	28	112	18	
岡田 爽良	3335	藤沢市青少年セーリングクラブ	UFD	57	17	17	11	11	16	16	18	18	119	19	
伊豫田 桜介	3181	Y MFS ジュニアヨットスクール葉山	4	4	34	34	33	33	35	35	15	15	121	20	
Sean Liu	311	Hong Kong 香港	13	13	20	20	30	30	25	25	34	34	122	21	
Chu Yeon Gyeong	412	South Korea 韓国	UFD	57	18	18	21	21	19	19	8	8	123	22	
Charles Winteringham	1304	Australia オーストラリア	11	11	28	28	27	27	26	26	35	35	127	23	
角田 一瑛	3319	浅虫ジュニアヨットクラブ	10	10	38	38	34	34	32	32	14	14	128	24	
青山 知央	3358	葉山町セーリング協会	UFD	57	15	15	15	15	23	23	21	21	131	25	

OP初級者 参加艇数 28艇												
氏名	セール No.	所属クラブ名	Heat.1 予選成績		Heat.2 予選成績		決勝 1R		決勝 2R		決勝合計 得点	総合順位
			得点	順位	得点	順位	順位	得点	順位	得点		
西田 帆七	2608	葉山町セーリング協会	10	3			1	1	1	1	2	1
増本 拓	2614	藤沢市青少年セーリングクラブ	17	10			2	2	4	4	6	2
神木 宏斗	3152	藤沢市青少年セーリングクラブ	4	1			4	4	5	5	9	3
長谷川 啓吾	2296	鳥取県ジュニアヨット協会	7	2			9	9	2	2	11	4
池田 ももか	2811	江東区立小中学校セーリング部	17	12			3	3	10	10	13	5
菅原 なな	2404	Y MFS ジュニアヨットスクール葉山	26	18	8	2	11	11	3	3	14	6
上條 久美子	2990	江東区立小中学校セーリング部	20	13			6	6	9	9	15	7
青山 若生	2607	葉山町セーリング協会	13	5			5	5	11	11	16	8
左近 麗咲子	3169	葉山町セーリング協会	13	4			12	12	6	6	18	9
松岡 達也	3168	葉山町セーリング協会	14	7			13	13	7	7	20	10
小山 すみれ	301	江東区立小中学校セーリング部	16	9			7	7	14	14	21	11
富永 晏吏	2728	江東区立小中学校セーリング部	21	14	5	1	15	15	8	8	23	12
土屋 颯策	3170	葉山町セーリング協会	15	8			10	10	13	13	23	13
岡田 海洋	3011	藤沢市青少年セーリングクラブ	14	6			8	8	16	16	24	14
渡邊 彩星	1878	夢の島ヨットクラブ	31	21	9	3	16	16	12	12	28	15
菅野 こころ	990	夢の島ヨットクラブ	17	11			14	14	15	15	29	16

レーザー 4.7 参加艇数 17 艇														
氏名	セール No.	所属クラブ名	1R		2R		3R		4R		5R		合計得点	総合順位
			順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
Daniil Maystrovskiy	202284	Russia ロシア	1	1	1	1	1	1	1	1	OCS	18	22	1
Penny Linton	195542	New Zealand ニュージーランド	8	8	5	5	3	3	3	3	3	3	22	2
坂井 友里愛	201552	ユースチーム東京	4	4	4	4	4	4	4	4	7	7	23	3
村野 龍典	202603	ユースチーム東京	3	3	6	6	12	12	2	2	4	4	27	4
Terada Fakkaew	9	Thailand タイ	2	2	14	14	6	6	7	7	2	2	31	5
桐井 航汰	180159	江の島ヨットクラブジュニア	UFD	18	3	3	2	2	15	15	1	1	39	6
渡邊 桜香	199062	ユースチーム東京	12	12	10	10	7	7	5	5	6	6	40	7
大久保優輝	145709	江の島ヨットクラブジュニア	11	11	2	2	5	5	RET	18	RDG	6	42	8

国際 420 級 参加艇数 6 艇												
氏名	1R		2R		3R		4R		5R		合計得点	総合順位
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
蓮千鶴・福田桃奈	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	9	1
蜂須賀晋之介・岩田慧吾	1	1	DNF	7	1	1	1	1	1	1	11	2
青海海雛・山田龍	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	14	3
岩間里奈・糟川麻衣	4	4	4	4	5	5	4	4	4	4	21	4
吉田真也・坂本龍平	5	5	3	3	4	4	5	5	5	5	22	5
宇田川真乃・大橋未奈	DNC	7	DNC	7	DNC	7	DNC	7	DNC	7	35	6

FJ 級 参加艇数 8 艇														
氏名	セール No.	所属クラブ名	1R		2R		3R		4R		5R		合計得点	総合順位
			順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
仲美南・鈴木せいら	1677	霞ヶ浦高等学校ヨット部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	1
藤平拓海・岡田和也	1577	霞ヶ浦高等学校ヨット部	2	2	3	3	3	3	2	2	2	2	12	2
松本飛龍・狩野弁慶	1780	霞ヶ浦高等学校ヨット部	3	3	2	2	2	2	3	3	4	4	14	3
野口柳太・岩村尚弥	1566	霞ヶ浦高等学校ヨット部	4	4	DNF	9	4	4	4	4	3	3	24	4
吉井稀世輝・高橋一心	178	霞ヶ浦高等学校ヨット部	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	24	5
柿沼磨弥・中西萌花	1179	東京都立日本橋高等学校ヨット部	6	6	5	5	7	7	6	6	6	6	30	6

第25回ジュニアヨット国際 親善東京レガッタ2015

2015年9月6日
東京都立
若洲海浜公園ヨット訓練所

東京都立若洲海浜公園
ヨット訓練所での開会式

恒例となっている若洲海浜公園ヨット訓練所に、9チームから62名の選手が集まり、ジュニアヨット国際親善東京レガッタ2015が開催されました。

台風接近の影響を受けてか高気圧に覆われた当日は風が弱くて安定せず、A海面は1レースのみ成立、ポンド内のB海面は決勝レース終了が大変遅くなるなど、運営泣かせでしたが、選手たちは熱心に取り組んでくれました。



JJYU 佐藤副会長ご挨拶



ミキハウス所属
須長選手の激励



プレザー、カップは
誰の手に?



陸上本部での
大会受付



トップ回航 (B海面)

OP 級上級者優勝者の葉山町セーリング協会青山知央選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップとプレザー、OP 級初級者優勝者の夢の島ヨットクラブの重松陽選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップが授与されました。

団体表彰としてのクラブ対抗レースは、昨年に続き葉山町セーリング協会が優勝の名誉に輝き、JJYU 会長特別賞の海外セーリング研修参加資格が授与されました。最後は恒例のジャンケン大会も行われ、盛会のうちに終了いたしました。

今年も運営にご尽力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。



B海面決勝レース
上サイドのブッドビート



小雨ハラつく中での
親善パーティー



高橋祐司
レース委員長による
成績発表



じゃんけん大会



風待ちの選手たち (A海面)



高橋有樹プロテスト委員長の
レース講評



体験試乗会に参加のケイ・インター
ナショナルスクールの皆さん



B海面決勝レースのスタート



決勝レースの運営艇 (B海面)



運営泣かせの微風だったA海面



ミキハウスカップ東京2015
第25回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ

実施報告

実行委員長
一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟
委員 森田 光一



はじめに

第25回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ(ミキハウスカップ東京2015)は、9月6日(日)に、東京都立若洲海滨公園ヨット訓練所及び若洲沖で、外務省、文部科学省、東京都、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と、三起商工株式会社(ミキハウス)の特別協賛及び大塚製薬株式会社の協賛を頂いて、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟(JJYU)と東京都ヨット連盟との共同主催にて開催されました。

当日は、台風 17・18 号が日本列島に接近する影響を受け、高気圧が発達傾向にあり、弱い風の中の大会になりました。参加は、OP級上級者28艇、OP級初級者 31艇、レーザー 4.7が3艇の計62艇でした。指導者・保護者、運営役員その他に加え、体験試乗会にも多くの子どもたち、父兄が参加し、賑やかな国際色豊かな大会となりました。

開会式

主催者代表JJYU佐藤精知夫副会長、ミキハウス執行役員総務部長の光川彰夫様からご挨拶をいただき、また、ミキハウス所属の須長由季オリンピック・ナショナルチーム選手から「夢を追い続けてください。夢は必ず叶います。」との激励のメッセージを頂きました。開会式終了後、A海面グループとB海面グループに別れてスキッパーズミーティングを行いました。



OP級初級者優勝の重松陽くん(右から1番目)と上位入賞者



レーザー 4.7 優勝の佐藤壮竜くん(右)

レース

■A海面:若洲沖三枚洲付近

9時20分と早めに出艇しましたが、海上の気温が予想以上に早く上昇し東寄りの風がつかめず、風待ちとなりました。東京湾全域の風と気象衛星画像を常時チェックしながら、風のシフトに合わせて何度もコース設定を試み、午後1時過ぎに両クラスともようやくスタートできました。しかしながら、両クラスとも先頭艇が第1上マーク回航後、風速が落ち、止む得なく第1下マーク手前でコース短縮とし、残念ながら1レースのみで大会は終了しました。

■B海面:訓練所前ポンド内

風向80° 風速2m/sと安定してきたため、10 時45分に第1レースをスタートさせましたが風が安定せず、予選6レースを終了したのは、13時55分となりました。

帆走指示書では14時 5 分以降に予告信号を発しない規定がありましたが、参加チームのコーチ・責任者に集まってもらい、全チームの了解を得て決勝レースを行いました。レース終了が大幅に遅れ、関係各位にご迷惑をお掛けしたことをお詫びいたします。

日本に滞在している外国人の
体験試乗会

江東区のケイ・インターナショナルスクールの小学生21名と保護者、幼児28名に参加して頂き、デイクルーザー2艇に交代で分乗し、弱い風の中でもセーリングを楽しんで頂きました。この中から、ヨットに乗る子供たちが出て来るのが楽しみです。



OP級上級者優勝の青山知央さん(右から1番目)と上位入賞者

閉会式・親善パーティー

表彰式・閉会式・親善パーティーを16時に開始しました。心配された雨が少し降ってきましたがそのまま艇庫前で行いました。キッチンカーから各テーブルに順次温かい食事が出されて、まずは食べて飲んで一息ついたところで表彰が始まりました。

高橋祐司レース委員長がクラス毎に成績を発表し、クラス毎に入賞者に賞状、メダル、ミキハウスの副賞の授与が行われ、皆さんでその栄誉を讃えました。

ミキハウスの光川部長と須長選手から、OP級上級者優勝者の葉山町セーリング協会青山知央選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップとブレザー、OP級初級者優勝者の夢の島ヨットクラブの重松陽選手にはクリスタルガラスのミキハウスカップが授与されました。

団体表彰としてのクラブ対抗レースは、昨年に続き葉山町セーリング協会が優勝の名誉に輝き、JJYU会長特別賞の海外セーリング研修参加資格が授与されました。

また、入賞できなかった選手たちだけによる恒例の「じゃんけん大会」によって、たくさんのミキハウスグッズが順番に贈られて、賑やかなパーティーとなりました。

最期に高橋有樹プロテスト委員長 からレース講評があり、レガッタは事故もなく無事に終了しました。

最後に

来年も、ジュニア初心者の普及と上級者が求めるレベルの高い良いレースをするため、早い段階から準備、検討をしたいと思います。

例年、特別協賛いただいているミキハウス様をはじめ、大塚製薬株式会社様等の後援・協力をいただいている各団体様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



クラブ対抗レース優勝の葉山町セーリング協会

第 25 回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ 成績(抄) 2015年9月5日(日) 東京都若洲海滨公園ヨット訓練所

OP 級上級者 参加艇 28 艇

セール No.	氏名	所属	性別	学年	1R		2R		3R		【最終成績】	
					順位	得点	順位	得点	順位	得点	得点合計	総合順位
3304	青山 知央	葉山町セーリング協会	女	小6	1	1					1	1
3176	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	男	小5	2	2					2	2
2893	後藤 凜子	葉山町セーリング協会	女	小5	3	2					3	3
3130	藤森 佑太郎	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	男	小6	4	4					4	4
3155	三浦 帆香	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	女	小6	5	5					5	5
3242	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	女	中2	6	6					6	6
3297	星野 高輝	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	小6	7	7					7	7
3096	関根 巧	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	男	小5	8	8					8	8
3305	金子 道之介	葉山町セーリング協会	男	小6	9	9					9	9
3227	佐藤 真心	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	女	小6	10	10					10	10
3246	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	男	中1	11	11					11	11
3184	菅野 馨	夢の島ヨットクラブ	男	小5	12	12					12	12
3302	伊原 駿之介	葉山町セーリング協会	男	小5	13	13					13	13
3285	山守 ちひろ	江東区立小中学校セーリング部	女	小6	14	14					14	14
3154	望月 翔太郎	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	男	小5	15	15					15	15
2951	杉野 潮音	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	男	小5	16	16					16	16
3298	島田 十楽成	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	中1	17	17					17	17
3301	須永 笑顔	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	女	中1	18	18					18	18
3284	渡辺 信幸	江東区立小中学校セーリング部	男	小6	19	19					19	19
3220	中島 優香	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	女	小6	20	20					20	20
2791	堀越 隆太	茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ	男	中2	21	21					21	21
3241	吉田 奈織	江東区立小中学校セーリング部	女	中1	22	22					22	22
3175	梶山 真央	江東区立小中学校セーリング部	男	小6	23	23					23	23
3299	加藤 芯	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	中1	24	24					24	24
2798	青山 瑞希	茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ	女	中2	25	25					25	25
2990	松岡 叶真	江東区立小中学校セーリング部	男	小6	26	26					26	26
3214	梅山 果子	江東区立小中学校セーリング部	女	小6	27	27					27	27
3289	荒木 智也	江東区立小中学校セーリング部	男	小6	28	28					28	28

OP 級初級者 参加艇数 31 艇

セール No.	氏名	所属	性別	学年	予選 G	予選 Race1		予選 Race2		予選成績		決勝 G	ﾌﾞﾛｽ*		ｼﾙﾊﾞｰ		ｺｰﾎﾞﾄ		【最終成績】
						順位	得点	順位	得点	得点	順位		着順	得点	着順	得点	着順	得点	
317	重松 陽	夢の島ヨットクラブ	男	小3	黄	3	3	2	2	5	3	青					1	1	1
2892	上田 瑞	葉山町セーリング協会	男	小4	青	3	3	1	1	4	1	青					2	2	2
2837	加藤 菜々海	茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ	女	小6	青	2	2	4	4	6	4	黄			1	1	3	3	3
311	宮本 あかり	夢の島ヨットクラブ	女	小4	黄	1	1	4	4	5	2	青					4	4	4
2605	松岡 尚吾	葉山町セーリング協会	男	小4	赤	1	1	1	1	2	1	青					5	5	5
2608	磯前 瀬夏	葉山町セーリング協会	男	小4	黄	DNF	12	3	3	15	6	黄			2	2	6	6	6
2139	園村 浩輔	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	中1	赤	6	6	2	2	8	2	青					7	7	7
2606	富松 志帆	葉山町セーリング協会	女	小4	黄	2	2	1	1	3	1	青					8	8	8
2888	櫻井 航希	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	男	中1	青	5	5	6	6	11	6	黄			3	3	9	9	9
1888	中島 拓海	横浜ジュニアヨットクラブ	男	小3	赤	10	10	3	3	13	3	青					10	10	10
2607	肥後 滉佑	葉山町セーリング協会	男	小4	青	4	4	2	2	6	3	青					11	11	11
2905	高野瀬 景太	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	小5	青	1	1	3	3	4	2	青					12	12	12
04	高橋 一天	茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ	男	小5	赤	4	4	DNF	12	16	6	黄			4	4			13
2404	林田 優希	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	女	小3	黄	4	4	7	7	11	5	黄			5	5			14
316	松岡 美波	いわきジュニアヨットクラブ	女	小5	赤	7	7	DNF	12	19	8	赤	1	1	6	6			15
661	渡邊 彩星	夢の島ヨットクラブ	男	小5	青	6	6	5	5	11	5	黄			7	7			16
990	菅野 こころ	夢の島ヨットクラブ	女	小2	青	7	7	7	7	14	7	黄			8	8			17
28	中野 翔太	茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ	男	中1	黄	5	5	5	5	10	4	黄			9	9			18
90	木場 凜子	江東区立小中学校セーリング部	女	小5	黄	6	6	9	9	15	7	黄			10	10			19
34	池田 ももか	江東区立小中学校セーリング部	女	小5	青	8	8	8	8	16	8	赤	2	2	11	11			20
2478	渡邊 皓星	夢の島ヨットクラブ	男	小5	赤	5	5	DNF	12	17	7	黄			12	12			21
2135	センコフ 優吾	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	男	小4	赤	2	2	DNF	12	14	4	黄			DNF	15			22
08	山川 侔平	江東区立小中学校セーリング部	男	小5	赤	3	3	DNF	12	15	5	黄			DNF	15			23
30	田中 雄也	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	男	中2	黄	DNF	12	6	6	18	8	赤	3	3					24
36	成瀬 琉水	江東区立小中学校セーリング部	女	小5	青	9	9	10	10	19	10	赤	4	4					25
30	小山 すみれ	江東区立小中学校セーリング部	女	小5	赤	8	8	DNF	12	20	9	赤	5	5					26
05	上条 久美子	江東区立小中学校セーリング部	女	小5	青	10	10	9	9	19	9	赤	6	6					27
32	曳野 泰斗	江東区立小中学校セーリング部	男	小5	黄	DNF	12	8	8	20	9	赤	7	7					28
09	富永 晏吏	江東区立小中学校セーリング部	男	小5	黄	DNF	12	10	10	22	10	赤	DNF	11					29
2893	尾崎 健人	葉山町セーリング協会	男	小4	赤	9	9	DNF	12	21	10	赤	DNF	11					30
33	蝶野 宇傑	江東区立小中学校セーリング部	男	小5	赤	11	11	DNF	12	23	11	赤	DNF	11					31

レーザー 4.7 参加艇数 3 艇

セール No.	氏名	所属	性別	学年	1R		2R		3R		【最終成績】	
					順位	得点	順位	得点	順位	得点	得点合計	総合順位
66016	佐藤 壮竜	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	男	中3	1	1	中止	中止	中止	中止	1	1
103860	村野 龍典	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	男	中3	2	2					2	2
112659	渡辺 桜香	江東区立小中学校セーリング部	女	中3	DNC	4					4	3

第4回ジュニアヨット国際 親善大阪レガッタ2015

2015年9月19日～20日
大阪北港マリーナ

民営化され新たに「大阪北港マリーナ」として生まれ変わったヨットハーバーに、西日本から4チーム21名の選手が集まり、ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ2015が開催されました。

レース前日の19日は、日本に滞在している海外児童向けの試乗会を行い、「芦屋インターナショナルスクール」の児童、父兄、先生が参加し、クルーザーでのセーリングを楽しみました。

レース当日は晴天に恵まれ、OP級上級者クラスとトッパー級は、沖合のレースコースで予定どおり4レースが実施さ



レガッタ本部（メルボルンハウス）



2艇の大型クルーザーでいざ出航！



芦屋インターナショナルスクールの皆さん



アクセスディンギーで体験試乗会



トッパー級スタート前



大阪北港マリーナ管理棟



ボンド内OP級初級者運営本部（ボンツーン上）



た。また、今年からはゆうこうマリン株式会社様からもヨット関連グッズの商品提供をいただき、各級2位までの選手に渡されました。

今年のクラブ対抗チーム優勝は三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ。特別賞の海外研修（タイクリニック）参加権を獲得しました。

最後は恒例のジャンケン大会も行われ、盛会のうちに終了いたしました。

最後に、今回の運営にご尽力いただいた関係者の皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

ホテルのようなゴミ焼却場の前でレース



レース運営していただく皆さんによるミーティング



ミキハウス 光川部長

JJYU 野村委員



艇長会議 徳本レース副委員長の説明



正門レース委員長のOP級初級者への説明



開会式



B&G 高松海洋クラブのサポート艇



OP級上級者スタート前



バーベキュー親善交流



ミキハウスカップ大阪2015
第4回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ

実施報告

大会運営本部本部長
一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟
理事 玉置 純



はじめに

昨年、諸般の事情により開催が中止されたジュニアヨット国際親善大阪レガッタですが、本年は外務省、文部科学省、公益財団法人日本セーリング連盟の後援と三起商工株式会社(以下 ミキハウス)の特別協賛、大塚製薬株式会社、ゆうこうマリン株式会社の協賛、大阪 北港ヨットクラブ、大阪北港ディンギークラブ、大阪北港マリーナ(biid 株式会社)の協力を得て、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ(以下JJYU)の主催により、9月19日(土)～20日(日)大阪北港マリーナとその沖合において第4回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ(ミキハウスカップ大阪2015)を2年振りに開催いたしました。

施設も昨年4月より、従来の大阪市営から民営に移管され、名称も大阪北港ヨットハーバーから大阪北港マリーナと改称され生まれ変わりました。

海外児童向け試乗会

初日の19日は日本に滞在している海外児童向けの試乗会を行い、「芦屋インターナショナルスクール」より児童6名、父兄及び教師6名の参加がありました。大阪北港ヨットクラブのご協力により、クラブ所属のクルーザー2艇に乗艇し、初秋の大阪湾でのセーリングを体験しました。また午後にはアクセスディンギーに試乗する児童もあり、初めてヨットに乗って、ヨットへの興味を大いに持った1日になったようでした。

ミキハウスさんで提供のブレザー、グッズ(手前)
ゆうこうマリンさんで提供のグッズ(奥)



レース当日

翌20日のレース当日は4クラブ、選手21名の参加があり、OP級上級者クラスに13艇、OP級初級者クラスに4艇、トッパー級4艇の内訳となりました。

9時より開会式が行われ、伊藤雅宣競技運営本部長(JJYU専務理事)、特別協賛を頂いたミキハウス光川彰夫部長より選手たちへの激励の挨拶と正門茂夫レース委員長(大阪北港ディンギークラブ会長)からの注意事項等の説明がありました。引き続いての艇長会議の後、各艇出艇しレース海面へ向かいました。

競技は、OP級上級者クラスとトッパー級は淀川河口の沖合レースコースで、OP級初級者クラスは北港ヨットハーバーのポンド内レースコースで実施しました。

当日は晴天に恵まれ、風速・風向等が安定しない時間もありましたが、沖合レースコースでは予定の4レースを実施しました。上位の選手と下位の選手間での実力差も若干みられましたが、日頃の練習の成果を発揮してくれたものと思います。

ポンド内も風の振れ等もありましたが、運営サイドの努力によりOP級初級者クラスで8レースを行なうことができました。ポンド内のレースということで、参加選手の父兄やコーチによる多くの声援があり、非常に賑やかな雰囲気で盛り上がっていました。

参加選手が4名という少人数でしたが、全員が一度は一位を取るなど、選手にも印象深いものとなったと思われます。

閉会式・親善バーベキューパーティー

全レース終了後、16時より閉会式、表彰式も兼ねた、親善交流パーティーをカフェ・ヘミングウェイ前で行いました。参加選手と指導者、保護者、運営スタッフ一同が参加し大阪北港マリーナの専門スタッフの用意した心づくしのバーベキューを楽しみました。

表彰式はOP級上級者クラスの抗議審問に時間を要した為、OP級初級者クラス及びトッパー級から行い、正門レース委員長の成績発表の後、各級優勝～3位に表彰状と金、銀、銅メダル、優勝者にトロフィーをJJYU伊藤専務理事より授与しました。特別協賛のミキハウス光川部長からも提供頂いた賞品を入賞者に渡して頂きました。

その後、OP級上級者クラスの見終成績も確定、優勝～6位までに表彰状、優勝～3位に金、銀、銅メダル授与を行いました。OP級上級者クラス優勝者の広島ベイディンギークラブ豊島有壮君にはトロフィーとともにミキハウスの優勝者ジャケットが光川部長より授与されました。また、今大会ではミキハウス様に加え、ゆうこうマリン(株)様からもヨット関連グッズの賞品提供を頂き、各級2位までの選手に渡されました。ジャンケン大会でミキハウスさんからご提供のグッズが順番に贈られて、賑やかなパーティーも終わりに近づきました。

最後に宇都宮剛夫(大阪北港ヨットクラブ理事)プロテスト委員長のレース講評があり、表彰式、閉会式を終了しました。

最後に

最後に本大会にご協力頂いた全ての関係者に感謝申し上げますとともに、来年の大会がより多くの参加者を得て充実したものとなるようご協力を重ねてお願いして、報告とさせていただきます。

OP級上級者入賞者



第4回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ 2015 成績(抄)

2015年9月20日 大阪北港マリーナ

OP 級上級者 参加艇数 13艇													
Entry	選手名	セーリング番号	所属	1R		2R		3R		4R		合計得点	総合順位
				順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
13	豊島 有壮	3030	広島ベイディンギークラブ	2	2	1	1	2	2	1	1	6	1
2	服部 友賀	2804	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	5	5	3	3	5	5	3	3	16	2
7	若林 幸輝	2973	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	1	1	DSQ	14	1	1	2	2	18	3
5	藤田 健太郎	1890	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	8	8	2	2	3	3	7	7	20	4
4	藤澤 慎悟	2475	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	3	3	9	9	4	4	4	4	20	5
12	谷 凜太郎	3083	B&G 高松海洋クラブ	7	7	5	5	7	7	5	5	24	6
8	旭 夏希	3254	B&G 高松海洋クラブ	6	6	6	6	6	6	6	6	24	7
6	安 那瑠起	2827	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	4	4	4	4	8	8	10	10	26	8
10	勝田 千尋	3252	B&G 高松海洋クラブ	11	11	10	10	9	9	8	8	38	9
11	勝田 実莉	2882	B&G 高松海洋クラブ	10	10	8	8	10	10	11	11	39	10
9	旭 竜之介	3253	B&G 高松海洋クラブ	12	12	7	7	13	13	9	9	41	11
3	服部 りら	2447	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	9	9	11	11	14	14	12	12	46	12
1	川北 百華	827	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	13	13	12	12	11	11	13	13	49	13

OP 級初級者 参加艇数 4艇																					
Entry	選手名	セール番号	所属	1R		2R		3R		4R		5R		6R		7R		8R		合計得点	総合順位
				順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
2	佐多 乙哉	2257	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	1	1	2	2	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	12	1
1	太田 タケル	2525	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	3	3	1	1	4	4	3	3	1	1	3	3	2	2	3	3	20	2
4	黒田 開	02	B&G 高松海洋クラブ	2	2	4	4	2	2	1	1	3	3	2	2	3	3	4	4	21	3
3	岡田 幸士朗	01	B&G 高松海洋クラブ	DNF	5	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	1	1	28	4

トッパー級 参加艇数 4艇													
Entry	選手名	セーリング番号	所属	1R		2R		3R		4R		合計得点	総合順位
				順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点		
2	安 南帆起	1	三重県ジュニア・ユースヨットクラブ	1	1	1	1	1	1	1	1	4	1
1	谷 光太郎	3	B&G 高松海洋クラブ	2	2	4	4	2	2	2	2	10	2
4	塔筋 吏起	2	北港ちょっとヨットビーチクラブ	3	3	2	2	4	4	DNF	5	14	3
3	塔筋 瑞規	8	北港ちょっとヨットビーチクラブ	4	4	3	3	3	3	3	3	15	4



トッパー級入賞者



OP級初級者入賞者



ジャンケン大会



快走するOP級上級者

クラブ対抗レース優勝
ア・ユースヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ

第4回

ジュニアヨットクラブジャンボリー2016

実行委員長 一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 理事 元 憲幸



静岡県立三ヶ日青年の家



オリエンテーション



初級者チームの練習



ゴールデンウィークの真っただ中、5月3日から5日までの3日間、静岡県立三ヶ日青年の家においてジュニアヨットクラブジャンボリーが開催されました。

JJYUのイベントとしておなじみになったこの合宿では、セーリングの練習はもちろん、あさり採りやカヌーそしてサップなどのメニューが用意されており、子どもから大人まで楽しむことができます。西は鳥取県から東は福島県まで、全国から集まった経験1年未満～中級の子供とその保護者およびクラブ指導者が、浜名湖の自然と触れ合いながら団体活動を通じて交流を深めていました。

■5月3日

開校式・入所式が行われ、青年の家スタッフからトイレのスリッパを揃えて脱ぐ、挨拶をキチンと行うなど、マナーを大切に行動するようにとのお話がありました。その後のオリエンテーションでは、活動内容の説明が行われました。ヨットを中心とした3日間におよぶ湖上体験のほかに、講師を招いての講演会、子どもや保護者の勉強会、朝と夕べの集いなど、盛りだくさんのプログラムに皆の期待が高まります。また活動をサポートするメンバーとして、堤たくみさん、植田なおみさん、神谷花実さんの3名のヤングコーチ、その他クラブの指導者や保護者そしてJJYU関係などのスタッフが紹介されました。

東からの強風が吹き付けるなか、昼から陸上および湖上の体験が行われました。参加者は初級者、中級者、上級者とクラスごとにグループ分けされ、それぞれの練習メニューをこなしていました。初級者チームの練習テーマはタックの基本を身につけること。この日のメニューは①陸上での基本動作の確認②ポンド内での動作確認③湖上での反復練習、でした。

夕食前はこの日の宿泊者が一堂に会して、夕べの集いの時間です。まずは各団体の代表者による旗の降納、そして団体紹介スピーチ（JJYUからは谷口美羽さん）と続き、締めくくりはゲームでの団体交流。じゃんけんゲームでみんな盛り上がっていました。練習のあとのお楽しみ、皆で食べる夕食は格別の味です。後片付けもキチンとできました。夕食後も、ジュニアセーラーの歌の練習、武村洋一氏を講師に迎えての子供勉強会、保護者の勉強会と、盛りだくさんのメニューで、22:30の消灯を迎えました。



夕べの集い



みんなで楽しく夕食



ジュニアセーラーの歌の練習 JJYU 山下さんのウクレレ伴奏付



講演会講師の 武村洋一氏

■5月4日

昨夜来の雨が上がり、西からの強風が吹き付ける快晴の一日でした。昨日に引き続きクラスごとの練習が行われました。また練習の合間には、あさり採りやカヌー・サップなどの体験で盛り上がっていました。



朝の集い



中上級者クラスはスタート時の見通しの採り方を陸上で練習



あさり採り

サップ体験



カヌー



とうございました。来年もお会いしましょう。

■5月5日

最終日も強風のなか青空が広がる練習日よりとなりました。湖上での練習は午前中で終了。昼食を終えてから退所式そして片づけを終えて解散しました。楽しくも充実した3日間を無事過ごすことができました。参加したジュニアセーラーのみなさん保護者のみなさん、そしてコーチやサポートで動き回って頂いた関係者の皆様、どうもありがとうございました。

参加者全員で記念撮影



2015年度海外セーリング研修報告

シンガポール

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 理事 山下 弘雄
同 理事 佐藤 公俊

2016年3月14日から21日まで、2015年7月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2015」の国内クラブ上位3クラブから、シンガポールでのセーリング研修に選手を派遣しました。



右から
増本晴君、リンインさん、
岡田爽良君、山下理事、
金子道之助君、菅野響君、
佐藤委員、重松駿君、
ホアさん



シンガポールセーラーと
中華レストランで懇親会



右から Mr. Ng Ser Miang (大
会名誉会長)、山下理事、Mr.
Andrew Tam (シンガ
ポールセーリング連盟、CEO)



重松駿君と
ホストファミリー



ナイトサファリにて

現地では、National Sailing Center (NSC) に受け入れていただき、Fish & Co. Youth Sailing Championship 2016に参加してきました。参加選手は、重松駿君、菅野響君(夢の島ヨットクラブ)、岡田爽良君、増本晴君(藤沢市青少年セーリングクラブ)、金子道之助君(葉山町セーリング協会)の5名です。

<シンガポールへ>

3月14日15:25チャンギ国際空港到着。空港にはNSCのリンインさん、ホアさん、チュアさんに迎えて頂きました。夜は数日前から滞在中の唐津の松山氏、アトランタ銀メダリスト重氏、シンガポール在住の木村拓哉氏、NSC CEOアンドリュース氏も合流し、中華レストランにて歓迎会を開催していただきました。

<練習、レース、ホームステイ>

15日は練習日。午前中に艦装を終え、昼食後、最初は日本チームだけで練習、その後香港チームと共に練習を行いました。汐の流れが速く、ボートスピードの速い香港チームが優勢でした。

16日レース初日。9:30からスキッパーミーティング。朝は風がなく待機でしたが、3レースできました。選手5名は今日からホームステイで、ホストファミリー5家族と対面しそれぞれの家庭に向かいました。

17日レース2日目。連日の炎天下で選手たちも我々も手足は火傷のようになってしまいました。シンガポールの選手達は長袖、長ズボンで日焼け対策を行っていたようです。今日は山下委員の指示で、選手たちは初日に速かった2艇をスタート前から追いかけ、間の取り方・タックのタイミング・ブローへの入り方等を観察していました。

18日レース3日目。午前中は風待ちでしたが、午

後は6-7mの風が吹き潮流の影響が少くなり、4レースできました。

19日はレース最終日。3レース終了後、15:00からトップ10によるメダルレースが始まり、優勝はシンガポール艇でした。18:00から立食パーティー形式の表彰式。表彰式前にインド3選手のプロテストに特別に臨席させて頂きましたが、彼らが10歳とは思えないくらい堂々と自分たちの考えを主張していたのには驚きました。終了後ホストファミリーとお別れ会を行い、ナイトサファリへ。最後の夜なので、NSCに戻っても選手たちの話し声が遅くまで聞こえていました。

<研修最終日>

ユニバーサルスタジオに行き、夕方まで好きなアトラクションを楽しみ、帰りにオーチャード通りに立ち寄りました。シンガポールの方々の見送りを受け21:40チャンギ空港を離陸。羽田空港でご家族に各選手を引き渡し、無事研修を終了しました。

外国人宅にホームステイしながら海外レースに参加する事は非常に有意義な経験であり、それを継続的に実施するJJYU海外セーリング研修の重要性を改めて実感しました。素晴らしいホスピタリティで受け入れていただいたNSCの皆さま、ホストファミリーの皆さま、JJYU関係者の皆さまに感謝いたします。



レーザー日本チーム表彰



レース前のスキッパーズミーティング



レース風景

2015年度海外セーリング研修報告

タイクリニック

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 理事 原田 浩二
同 理事 山下 弘雄 (関東水域OP連絡会 会長)

ミキハウスカップ東京2015とミキハウスカップ大阪2015の優勝クラブである葉山町セーリング協会と三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブから、関東水域OP連絡会(関水連)が主催するタイクリニックに3名の選手を派遣しました。

今年は、第10回の記念クリニックで、21名の選手、13名の父兄が参加し、現地では記念式典も開催されました。

関水連によれば、タイクリニックの趣旨は、

「セーリングと云う世界共通のスポーツを通じて、若い世代、主として中学生以下の年齢を対象として、文化や、歴史の異なる外国で具体的な交流を行います。王国文化のタイでお互いに理解尊重しあい、見る、体験し、考えることを学びます。その方法は自分で創意工夫して、表現、アピールし、セーラーに必要な資質を養う体験する参加型チャレンジプログラムが組まれます。開催地はセーリングの環境では世界有数の海域と云われるタイ湾に面した王立海軍基地と沿岸警備隊基地の敷地内をベースキャンプにして開催されます。」

とあり、現地ではタイの同世代のセーラーたちとパートナー(パディー)を組んで練習や寝泊まりを共にし、自主性を重んじた厳しい練習や交流を通じて、スキルの向上だけでなく、お互いの文化や考え方への理解を深めていきます。

私はJJYUの引率として初めて参加しましたが、気温は平均30度、水深は約5m、風向、風速は安定し、まさに散歩の延長線上に海(マリンスポーツ)があるという恵まれた環境の中で、海上ではあくまでも自分で考えさせると



ベースキャンプとなる YRAT 事務所



10
回
記念
式
典
に
て



開
会
式
。
パ
デ
ィ
ー
結
成



練習風景



像にも乗りました
(動物園にて)

の方針のもと、シバーしていても、沈していてもほったらかして、まさに自然の中でセルフコントロールが必要なスポーツの原点を見ようでした。参加した選手、父兄の皆さんにはおおよそ満足いただけたと思います。

(JJYUの派遣選手)

後藤 凜子(葉山町セーリング協会)
服部 友賀(三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ)
松岡 尚吾(葉山町セーリング協会)



フェアウェルパーティーにて



朝のブリーフフォン



みんなで食事



閉
会
式
の
後
、
修
了
書
を
手
に
集
合
写
真

2015年度 海外セーリング研修報告 パース

歓迎のサンセットクルーシニング



サンドイッチを食べながら
帆走指示書をチェック



レーザー 4.7 の練習風景



OP 級のスタート風景



ホストファミリー宅のプールで楽しむ



ホストファミリーと
涙のお別れ

表彰セレモニーで
記念品交換



一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟
理事 小野澤 秀典

本年度も、ロイヤル・パース・ヨットクラブから、西オーストラリア選手権と位置づけられるビッグレース「ロイヤル・パース・ヨットクラブ・ディンギー・ミニシリーズ2016」への招待があり、連盟登録クラブに呼びかけたところ、B&G 高松海洋クラブ、YMFS ジュニアヨットスクール葉山から6名の選手の応募があり、2016年2月3日から10日までの8日間の日程で参加しました。オーストラリアのパースでセーリング研修を行いました。6名全員が感想文を提出してくれましたが、紙面の都合で皆さんをご紹介できなくて申し訳ありません。YMFS ジュニアヨットスクール葉山の須永さんが詳しいレポートをしてくれましたので、それをご紹介することで報告に代えさせて頂きます。

RPYCレガッタ参加&ホームステイについて
YMFS ジュニアヨットスクール葉山 須永笑顔

私は、今回初めての海外レースの参加と、シンガポールに続き、パースでの二回目のホームステイで、数えきれない程の、素晴らしい経験をする事が出来ました。ホストファミリーとの出会いも一生の宝物です。

選考会とパース遠征に向けての、年末年始の強化練習も、自分なりに頑張ったつもりでしたが、ナショナルチーム選考会では、良い結果を残す事が出来ずに、悔しい気持ちで一杯になりました。なので、今回のRPYCレガッタでは、必ず納得の出来るセーリングをしたいと思っていました。

部活動では、今までより真剣に、仲間達と8〜10キロ位のランニングを、更に走り込みや筋トレをして、体力と持久力を付けました。家で毎日腹筋も必ずしていました。良いイメージを作るために映像も観る様にして、パースに出発しました。

到着した日のクルーシニングは、大人はお酒を飲みながらのレースでした。リラックスした雰囲気の中、とても気持ち良く過ごす事が出来ました。私のホストファミリーも、家族皆で来てくれて、皆が笑顔でとても嬉しかったです。

大会前日は、中〜強風の中で練習が出来た為、レース海面の様子、風景、風の振れ方と入り方、川の流れ等の、パースの特徴を少し掴む事が出来ました。

レースでは、海外選手と戦う事で、新しい課題が見つかりました。それは、スタートとランニングです。スタートは日本と違い、スタートの直前まで、かなりの人が動き回っています。同じところに一分前から止まっていると、川の流れて流されてしまいました。また、カウントに合わせて、ピットリとスタートラインを切ってくる艇にスピードが付いて行けず、置いて行かれてしまいました。皆、かなり攻撃的です。声も出します。私も声を出してみましたが、きっと少し小さかったと思います。

ランニングでは、自分がトップで上マークを回り、5〜6M離れたところで、2位の艇が回って来ても、直ぐに間が縮まってしまい、2位に落ちてしまう事もありました。皆、スプリットを調整していました。スプリットを落してしまう選手も何人かいまし



右から、YMFS ジュニアヨットスクール葉山の須永笑顔さん、B&G 高松海洋クラブの藤村拓斗くん、B&G 高松海洋クラブの藤村勇斗くん、B&G 高松海洋クラブの御殿夏颯くん、YMFS ジュニアヨットスクール葉山の廣瀬翔大くん、ホストファミリーの John Winteringham さん、藤村兄弟のお母さんの美也さん、RPYC コーチの Michael McAullay さん、後列右側から、YMFS ジュニアヨットスクール葉山の箱守康之さん、御殿くんのお父さんの千博さん、YMFS ジュニアヨットスクール葉山の金山幹世さん、McAullay 兄弟のお父さんの Ray McAullay さん。

た。私は自信が無くて調整出来ませんでした。

海外選手は、真剣な中でも、レースをとても楽しんでる事が伝わって来ました。なので、私達日本選手も、レースの駆け引きも楽しむ事が出来ました。日本でも、もっとレースを楽しむ選手が増えたら良いと思いました。会話のやりとりも楽しかったです。これからは、基本をしっかりと大切に、その場に合ったセーリングも、出来る様になりたいと思います。

ホームステイでは、とてもリラックスして、楽しく過ごすことが出来ました。

犬の Luffy の散歩を、9歳の Ruby として、パン屋さんで家族と一緒に朝食をするのが日課です。友達の家プールや家の屋上のテニスコートと一緒に遊びました。とても広い家でした。

Mellisa(母) と二人で、散歩のついでに、ゆったりとインド洋で泳いだ日もありました。パースの観光地や、Zhaik のお店にも行く事が出来たので、念願の新しいライフジャケットを買う事が出来ました。

中でも、有名なハンバーガー店に連れて行ってくれた時には、凄く美味しくて、嬉しくてたまりませんでした。今まで食べた事が無い美味しさでした。

Ruby の学校に朝送りに行って、中に入りました。日本には無い学校のシステムがあり、海外ドラマの様な世界でした。友達や先生方も紹介して下さい、おせんべいを皆に沢山プレゼントする事が出来ました。

日本からのお土産の、文具、お菓子、お茶、扇子、手ぬぐい、いろいろな大会で貰ったTシャツなど、どれも大変喜んで貰えて嬉しかったです。

また、プレゼントした寿司桶と、「とびだせお寿司」のおもちゃを使って、Mark(父) が、お寿司の為だけに釣って来てくれた、シーラの刺身で食べました。なかなか楽しかったのですが、やはり刺身を食べる文化はあまり無いようでした。

折り紙で鶴の折り方を教えてあげて、千羽鶴を目標に大量に作りました。

最終日には、Melissa が美容師で、私の傷んだ髪の毛をカットしてくれました。それは、気持ちがこもったプレゼントでした。別れるのがとても辛かったです。帰りたくありませんでした。今度ニセコに来てくれるそうです。楽しみです。

前回のシンガポールのホームステイの時も感じた事ですが、今回のホームステイで、私は今までよりも、もっともっと英語でコミュニケーションを取れる様になりたいと思いました。

強化練習をしてくれた齊藤コーチ、レガッタに参加する機会を与えてくれたJJYU、温かく迎えてくれたRPYCの皆さん、ホームステイ先の Mark、Mellisa、Ruby、日本から一緒に行った、小野澤コーチ、箱守コーチ、かける君のお父さん、ゆうと&たくとのお母さんに感謝します。今回も仲間に恵まれた遠征となりました。

2015 年度 指導育成委員会の活動

いわきジュニアヨットクラブへの出前コーチ報告

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟 指導育成委員会 常務理事 中川 二朗
同 理事 山下 弘雄

福島県ヨット連盟理事・斎藤道明氏(いわき海星高校教諭)からのご要望を受けて、いわきジュニアヨットクラブの大平邦夫代表と相談の上、JJYU の指導育成委員会のプログラム『出前コーチ』として、2016年10月16日(日)に福島県いわき海星高校ヨット部艇庫及び小名浜港にてジュニアの指導を行いましたので、ご報告いたします。

●参加者

□ジュニア…松岡美波 (小6女子)、渡辺海帆 (小6女子)、庄野湊 (小5男子)、庄野伊織 (小4男子)、その他クラブ員ではないが体験で蛭田美帆 (小5女子) 及び海星高校部員4名 (高1男子) □保護者…松岡修一、松岡千穂、渡辺光輝、庄野武、庄野美和子

●クラブの概要



5年前の津波ではいわき海星高校ヨット部のクラブハウスの天井まで波が来て側面の板が全部流れてしまい周りの鉄筋だけが残りました。現在は補修して立派な艇庫に戻り、その一部をジュニアヨットクラブが借りています。



練習海面までは、艇庫の横にある小名浜港のスロープを借りて出艇していますが、土曜、日曜日は漁船が動かないらしく、自由に港を利用できます。風の強い時には港の中で練習出来、今回初心者の方2名はスロープの直ぐ前の一角で練習しました。全てを使用出来る恵まれた環境と思います。



指導に使うコーチボートはクラブの代表者でもありコーチの大平先生が自作されたボートと、もう1艇はいわき海星高校のレスキューボートの2艇を使いました。(写真は大平代表の自作艇)

●練習内容

出前コーチプログラムは、大平代表の開会挨拶と JJYU 中川常務理事の挨拶で始まり、受講者、ご父兄の紹介から始まりました。



機装のチェックから始めましたが、浜名湖で指導した通り、殆ど直す所がない機装に変わっており、大平代表のご努力と浜名湖のクリニックの効果ができていると感じました。



次に、陸上にて、タッキングのシュミレーションを一人ひとり徹底して練習しました。5月の

クラブの発掘のために本制度の PR、③出前コーチを実施したクラブの継続的なフォロー、を実施していきたいと思っています。



参加者みんなで記念撮影



浜名湖では大泣きしていたおり君(庄野伊織)が真剣に学んでいます。乗る位置と方向転換(タック)について現在海外で主流になり多くのクラブで採用している方法を練習させました。

次にハーバーからの出艇の仕方を教えました。父兄に手伝って貰うことなく、子供だけの力で出艇・帰着が出来ないとだめだよ。海上では、港内に設置してあるブイを目標として、フォロワーリーダーによるアビームとクローズホールドからのロールタックの練習を重点的に行いました。目いっぱい指導した結果、素晴らしいセーリングに変わったと思います。

●保護者との懇談

練習後、ジュニア及びその保護者、大平代表夫妻、JSAF いわき外洋の菊池理事を交えて意見交換を行いました。主なテーマは、「何故ヨット(セーリング)をやるのか」、「ジュニアの活動と中学の部活動」、「保護者とクラブとの関わり方」等で、話はとても盛り上がりました。印象的であったのは大平代表から、「私は、船を造ることに夢があり、レースは船の性能を確認するためのもの」とのコメントでした。

●終わりに

出前コーチは、3年前に三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブで実施して以来2回目になります。出前コーチは、地方のクラブと JJYU との距離を近づける有力な手段であり、今後とも継続・発展させて行くべき事業として、今後、①コーチ用のテキストや写真入りの参考資料などの作成、②コーチを要請してくる

ジュニアヨットクラブの指導者・コーチの皆さんへ

第2回

6. 厄介なプロテスト制度

ヨット競技規則の中で他のスポーツにない特異な条項は、競技者自身に抗議権（プロテスト）を与えている部分であろう。野球、サッカーを始め殆んどスポーツでは抗議権は監督など一定の資格者だけに限定されていて、選手には与えられていない。高校野球で審判の判定に首をかしげたり、不服そうな表情をする姿を見た人は居ないはずである。プロ野球であっても思わず出てしまった選手の暴言でも退場を宣告されている。「プロテストは選手相互の抗議で審判に対するものではないから、他のスポーツの例と比較出来ない」と云ったあるルールマニアが居たが、条文解釈は正しいとして、我が国の有り様はそうっていない。プロテスト委員は確かに規定上は裁定者であり、被抗議者ではないが、これまで数々の競技会での審問の実体は選手相互よりもプロテスト委員への激しい抗議の様相が勝って、素直に裁定に従う態度は稀であった。ジュニアの競技会について言えば、抗議権を与えられていない親やコーチによるプロテスト委員への度を越した抗議が少なくなかった。そして、その挙句に上告という制度にまでエスカレートした例がここ10年の間でもインターハイやジュニアのレースであったことは記憶から去っていない。抗議（Protest）と上告（Appeal）の原文（英語）のニュアンスの差は専門家に任せるとして、筆者なりに、Appealは「哀願」であって、当事者が同情を求める趣があつて然るべきと思う。ところが、過去の例では裁定不服で訴える強烈な抗議調であり、その事が上告側の意図に反してかえって重罰化を招く例があった。当事者同士のトラブルは、冷静な判断を欠いて感情的になり勝ちなことから、どのスポーツでも抗議権を競技者に与えていないのだが、ヨットレースがそうならない理由がある。即ち、ヨットレースは広大な洋上に多くの艇が散開して行われるため、各艇の相対

関係や局所的海象条件を現認・監視することが不可能なため、ジャッジ、アムパイヤー、レフリー等の審判員は存在しない。抜きうちの高速ボートでチェックして回るジュリーもその語源通り陪審員の立場に留まっている。一方ヨットは常に転覆・衝突・故障などの危険を伴っていて、それによる物的・人的損傷は陸上の刑事事件に相当するため、競技主催者は国家権力の手を煩わすことなく自己完結型に責任を果たす覚悟から、競技者自身に抗議権を与えたのだと思う。つまり自分達の趣味のために社会に迷惑をかけぬよう、競技者全てが成熟した品格ある大人として必要悪としてのこの制度に対応せんとするセーラー全ての紳士協定が前提であることを我々は自覚すべきであろう。つまり誰も観ていない所で起こる事象こそ高い倫理観を要求されることを子供達に教えて欲しいところだが、上述の通り現実の勝利至上主義の風潮では、ジュニアレースでのプロテスト制度の適用はいささか無理であると筆者は考えている。筆者がJJYUのレースで競技規則の部分不適用を主張している理由は次の通りである。その第一は、完全適用を忠実に行えば、運営側の労力、時間、設備、機械など固定的な費用が膨大になることの他に、第二にプロテスト制度を適用するには小・中学生の読解力・判断力・記憶力・表現力のどれをとっても無理であること。第三には上記の知的成熟度のバラツキが大きい上に技量分布のバラツキ(オリンピックコースで2レグ以上の差が出る)、経験年数のバラツキ(小4〜中3)があつて、抗議・被抗議の関係が対等にならないと思うからである。筆者のJJYUでの25年間の経験ではこれ等不均衡の関係でのケースが多かったが、ジュニアレースを勘案して高い見識で対応されたプロテスト委員長のお陰で深刻な問題に発展しなかったことは幸いであつた。ちなみに、これまで国際交流レースで招いた国は、欧州、南北米大陸、大洋

（一般社団法人）
日本ジュニアヨットクラブ連盟
副会長
安井 清



州、東南アジア、極東からの10数カ国のうち、抗議提出は韓国から数回あつた以外はニュージーランドから韓国に出されただけであり、このケースも韓国選手の暴言に対してであつた。最近のインカレやインターハイがどういう状況か筆者は知らないが、多分相変わらずスタートの位置取りや、マーク回航では相当の暴言が飛びかっているのではないかと想像する。こういう経験をしたコーチ達が教えたのかどうかは分からないが、ジュニアのレースでも聞くに耐えない暴言が、特に上級者から発せられていることは、実に嘆かわしいことであり、これをなくすことがヨット後進国から脱皮する大切な要件ではないだろうか？いかなるスポーツも競技相手を尊重する精神を大切にしている。他のスポーツと違って競技の始めと終わりに競技者相互で挨拶をする儀式がヨットレースには存在しない。虚礼と云えばそれまでだが、各クラブ内の仲間同士では何等かの儀式を一考願いたいと思っている。最後に、ラグビーでは「ノーサイド」という儀式がある。ゲーム終了の笛が鳴った瞬間に敵味方の関係が消滅することである。ヨットに於けるプロテスト制度は原理的に「ノーサイド」にならないことが最大の欠点ではなからうか。レースが終わったあと延々と成績が出せない仕組みは、レース中の暴言や抗議審問での過熱した争いと共に、子供達のヨットへの愛好意欲を著しく殺いで、ヨットから去って行った実に多くの子供（学生も）がいたことを筆者は長年に亘って見てきたことを伝えておきたい。

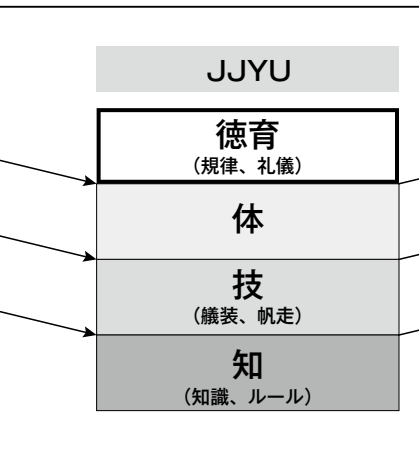
安井清副会長は、長年にわたりJJYUの指導委員会委員長として、指導者研修会などの講師を務めてられました。今回、これまでの講義内容をベースに、新たに加筆していただき、子供たちにヨットを教える指導者の皆さんへの「指導書」としてまとめました。今回は、三回連載の二回目です。



7. 公認指導員制度について

「国（文科省）、体協、JSAFそれぞれに指導員認定制度があるのに、更に、JJYUの公認制度が何故必要なのか？そしてその資格の有無でどんな特典や制約があるのか？」の質問がしばしば会員や指導員から寄せられるので、今回はこれに答えてみたい。実は筆者も上記の指導員講習の受講経験があつて資格を得たことがある。その感想を先に述べれば、各々の認定機関が目的とする対象者や受講テーマには、間口の広さや深さの違いはあるものの、いずれもスポーツ全般の成人向けの総括的概論となつて居て、いささか拍子抜けだった。スポーツ界では種目ごとに認定制度があるはずだが、医師の免許に内科、外科、小児科・・・の別があるように、指導を受ける側の年齢層や性別そして何よりも専門的な部分で細分化されたものでなければ実用性がないと考えている。JJYUでその特性を挙げるなら、第一に未成熟の少年少女を対象とすること、第

二に極く普通（英才教育ではない）の子供の校外活動であること、第三に技術面と同等に精神面（人格）の指導を重視すること・・・である。精神面については小澤先生が特に力を入られたことで、戦後の小・中学校教育で稀薄になった徳育を校外活動で補うお考えであつた。この点を分かり易く言えば、知育（アタマ）、技育（ウデ）、体育（カラダ）、徳育（ココロ）の指導エネルギーの配分のことで、小澤先生の考えにあつたことを筆者なりに図解すると次の概念図となる。



8. 小論文の中の気掛かりな言葉

指導員の公認手続きは、年令や経験年数の規定に基づいてクラブ代表者を通じて申請される。即ち推薦（代表本人の場合は自薦）であるが、同時に本人の思想、抱負、心構えなどを小論文にまとめて提出することになっている。筆者は過去20

ている。つまり家庭や小・中学校で為すべきことが為されないことのギャップを埋めることは、希望入会の校外活動ならば、より可能と考えている。以上、JJYUの公認制度の特異性の骨子について述べたが、連盟発行の「指導員テキスト(平成15年版)」を熟読されれば、より一層理解が得られると思う。尚、他の免許制度は数年後の更新の折に何らかの講習を義務付けているが、JJYUとしてはスポーツ界で日々新たな問題が生じていることに即応すべく、毎年の研修会を議論の場として趣意の徹底に努めている。「Youth」誌面を借りてのこの連載稿も、実は過去20年間の研修会の圧縮版のつもりである。最後に、公認の特典であるが、その有無はクラブ活動への信頼感の強弱であつて、JJYUへの加盟条件としていない。但し、連盟の組織理念や競技会運営に対する要望、意見、抗議等が複綜するケースでは、JJYUの活動目的への理解度の判断尺度としてその対応に濃淡が出ることには

年の間に百名を超える方々からの論文を読ませて貰ったが、今回は多くの人が使っていていささか懸念を憶えた言葉を取上げてみる。(1)「子供たちに夢を与えたい」「ヨットを好きになって欲しい」ぐらいの意味であろうが、夢は夢であつて現実から遠いものだから安易に使うのは注意したい。

よくトップアスリートのインタビューでは「夢は持ち続ければ必ず叶うものだ」があるが、これは何千人に一人のアスリートだから云えることで、普通の人間には当てはまらない。高校生以上にもなれば受け流せるかもしれないが、児童は真に受けて、「上達しないのは夢を持たない自分がダメなのだ」とする。

コーチの多くはたぶんヨットへの情熱が高く、それなりの栄光を得ていて、それを子供に味あわせたいと思うのだろう。子供がヨットを始める動機はいろいろだろうが、身近にある野球やサッカーとは異なり、多くは親など他からの勧めによるようだから、初めから夢は描いている例は少ないはずだ。

従って、子供がヨットを楽しんでいるのか、つまらないのかの見極めを大切にして、それぞれの素質と努力に応じて、技量の向上を促し、そこから興味をつないでゆくことで夢が生まれてくるのを待つという姿勢でよいだろう。

(2)「子供の目線で活動してゆく」「～目線」がマスメディアで使われて久しいが、本来は生活水準の高低(貧富)や権力の強弱(政治家と庶民、社長とヒラ、教師と生徒、医師と患者など)が固定化した状態で、弱者側が価値観の修正を求める時に使われるのが一般的のようだ。確かにコーチと選手は強弱の関係であるから、格差が固定化して体罰やいじめなど強者の横暴を自戒することは大切であるが、子供目線となるといささか引っ掛かるものがある。

つまり、子供とは、そもそも自分勝手というか自己中心的というか、好き嫌いで行動をし勝ちなものだから、団体活動子供目線で進めることは出来ないはずであろう。更に子供は気紛れであるし、小学3年生と中学3年生ではその成熟度も価値観も大きな差がある。筆者は毎年の競技会で何人かの子供について定点観測させて貰っているが、個人の変身(精神的成長)の速さに驚いている。

つまり、個人の目線も日替わり、月替わりで変化している。

個々の子供たちの立場に細かく配慮することは大切だが、団体活動を統御するには、大人目線で進めることに自信をもつべきと考える。

(3)「子供の人格を認め、自主性を尊重する」ヨットの出し入れ、艀装や解装、備品や衣類の水出しなど、教えた事、決めた事は全て自分でやらせることは大いに結構ではあるが、その延長で無理なことまで

子供に責任を負わせることは危険である。無理な例のひとつとして、JJYUの競技会で通例となっているクラブ代表者による一括した出艇及び帰着申告のシステムをあげてみる。子供たちが競技会海面の気象、海象と自分の技量を秤量して出艇の判断を行うのは、仮に上級者と云っても無理があるとみている。筆者は高校生、大学生でも失敗例を多く見て来た。また、健康状態についても、とすると言い出せない子供や、頑張りすぎる子供がいるから、それと技量判定は日頃から子供に接している指導者に判断責任を求めている。

このJJYUの方法に異を唱える指導者の主張は、「国際レースでの訓練にならない」とか「自己責任を強調するヨットの精神を幼い時から訓練すべきだ」などである。「国際レース…」は論外としても、自己責任を教えることと実際に負わせることは別次元であろう。事故が起きて「子供は自己の責任で出艇した…」は社会に通用しない。

話が少しそれるが、JJYUでは出艇・帰着申告を選手個々にタリーボード(木札の裏返し)で行っていた時期があるが、ある競技会で事件が起きた。選手の一人が友達としゃべりながら隣の札で帰着申告をして、艇の解装後、宿舍に帰ってしまった。間違えられた選手は母親が裏返したものだと思い、何も問わずに宿舍に帰ったので、日が暮れて、間違えた子供の未帰還に運営委員総出の探索となった。

結果は宿舍で入浴中の子供を発見し、代表者と子供への厳重注意とした。この選手は上級の中でも上位の戦績途上であつたから、順位を争う子供をもつ数クラブの指導者から、当日のレースの失格を主張する執拗な抗議があとを引き、往生したことがある。結論は抗議を受け付けず厳重注意のままとしたが、子供にはこういうミスがつきものであり、特に年令分布、技倆分布の幅が広いJJYUのレースやクラブ運営では、選手の自主性・主体性はむしろ重視し得ない面が多いと考えられる。

(4)「子供達それぞれの個性を尊重する」個性は「豊かな個性」や「恵まれた個性」などと肯定的に使われることが多いが、本来は中立価値であるから良い個性も悪い個性もあるだろう。つまり、良い個性は尊重して伸ばすにしても、悪い個性は矯正しなければならない。

更に、たとえ良い個性にしてもそれを全開にしてよいものでもあるまい。ラグビーには、“one for all, all for one”があるが、「一人は皆んなのために、皆んなは一人のために」のチームプレーの心掛けである。昭和から平成へ向って劣化が著しい現代

人の精神は“all for me”(皆んなは私のために)へどんどん進んでいることではないか?「個性の尊重」は我儘勝手と辛抱ゼロの旗印の気がする。前掲の「子供目線」も「自主性尊重」も含めて、昭和末期から始まった学級崩壊の基になった自己中(じこちゅう)児童、そしてそれを増幅させたモンスターペアレント、そしてそれに隙を与えたデモシカ教師、それを助長すべく教師を労働者と煽り立てた社会主義運動という連鎖が生んだ呪文ではなからうか。

以上、親や子供にとって都合のよい解釈を許容するような曖昧な言葉はとすると指導者やコーチの活動の自由を束縛することになったり、クラブ運営を損なうような運動に利用されることも充分留意されんことを願っている。

9. スポーツマンシップとシーマンシップ

セーリング競技規則の冒頭には、「スポーツマンシップの基本原則は、競技者が規則に違反した場合、速やかにペナルティーを履行するか、リタイヤーすることである」とある。

しかし、ルール違反の有無の判断が選手自身による以上、自分の都合に合わせてこの条項を歪曲化する惧れを常にはらんでいる。この条項の前提条件として、全ての選手がスポーツマンシップの精神の保持者であるとするなら、この文章は無用となり、論理に厳格な欧米人らしくないルールである。

本稿第三回・5「競技規則の取扱い」で触れたように、スポーツマンシップに則したフェアプレーとは倫理レベルで評価されるべきで、ルールレベルを採るべきではないと考えれば、子供達にこの基本原則を教える時は、自分自身に対してはより厳しい態度を課して、自分を裁く心を強調する必要があるだろう。

ところで、小澤吉太郎先生は、ジュニアヨットの育成方向が競技ヨットに向う傾向を嘆いて「ヨット道」を唱えておられた。日本には「武道、武術」のように「道」と「術」があり、「術」は相手に勝つことが目的であるのに対して、「道」は自分に克つことであって、目標としてはより高級であると。つまり、レーサー(競技者＝術)ではなくシーマン(海人＝道)を育てることが海国日本に必要なのだ・・・と。

「――シップ」(～ship)にはフレンドシップ(友情)、ワークマンシップ(職人芸)、スカラシップ(学位)などで使われるが、共通概念としては、自分自身が妥協出来

ないアイデンティティーとしての「魂」が最も近いようだ。シーマンシップとは千変万化の海を体験し、操船や船の保守に関する技倆に長じ、海に生きる豊富な知恵と経験を積んでゆく終わりなき「道」であって、その一定水準に達した人物に対して「潮氣」の称号が与えられている。

一方スポーツマンシップのほうは、欧米人の受け取る微妙なニュアンスと日本人ではその文化的な差異があって難しい。「スポーツマンシップは日本の武士道に近い」とも言われるが、武士道の中にある「強きを挫き弱きを援ける」では勝敗を競い合う子供達からの質問に困る。結局「正義感」「公正さ」「潔さ」などの構成概念を並べて説明することになるが、ここで我田引水になるが筆者なりの定義を示しておこう。

次に挙げる挨拶は、過去に招かれた地方水域の競技会(鹿児島、島根、新潟、小樽)で保護者と子供達を前にしてしゃべったことの要約である。

「諸君は成績一位が優勝者と信じていようが、実は一位と優勝は別物です。優勝の優を分解すると「人を憂う」になります。つまり優とは「他人の事を心配する能力」を表しています。競争相手を大切にし、負けた仲間の気持ちを察する優しさがあって初めて優秀と認められるのです。

自分が権利艇だからといって、ボートを激しくぶつけたり、年令差や技倆差を無視して暴言を吐いたり、脅しなどの選手は、一位の成績でも優勝の栄誉は与えません。先生方が可能な限り諸君のレース態度を観察しますが、広い海面ですから限界があり、隠れて乱暴を働けば分かりません。しかし誰も見ていない所で自分を律することが諸君の心を美しくするのです。それがヨットというスポーツの良さです。レースは相手の選手がいて初めて出来るのです。今日一日仲間の年令差や技倆差を考えながら「優しい気持ち」を忘れずに皆さん優勝に向ってボートを走らせて下さい。」

以上、「スポーツマンシップ＝優しさ」は筆者が若い時に読んだレイモンド・チャンドラー(米国)の連作でダンディな主人公フィリップ・マローの次の科白がヒントになった。

即ち、「人間は強くなければ生きていけない、しかし優しくなければ生きている意味がないのも確かだ。」

スポーツ界に限らず、「強さと優しさ」は苦界に生活する我々人間に迫って止まない価値観の両輪であろう。

優しさがあれば強いとは限らない。強け

れば優しいとは限らない。しかし本物の強さだけは他者に優しい事を我々は知っている。野球界での長嶋茂雄、王貞治、衣笠祥雄、松井秀喜の諸氏の優しさは本物の強さから生まれた自然の優しさではないか?

行司の差し違えで連勝記録が止まり、「判定が難しい角力をとった自分が弱い」と答えた大鵬。決勝で傷めた脚を攻め続けたラシュワン(エジプト)への観衆や新聞のブーイングを被って、利き脚を攻めなかった相手を誉めた柔道の山下泰裕氏・・・「スポーツマンシップイコール優しさ」の筆者の定義の抛り所でもある。

本稿の終わりに、スポーツマンシップに関する事例を挙げておきたい。

(1) 1981 OP 世界選手権大会 於アイルランド

松本富士也氏(元 JSAF 理事、早大 OB)から伺った話であり、詳細は忘れたが、御子息・松本真也氏(当時中学1年生)が出場した大会でアイルランドの選手がコーチの指示で嘘をついたことが判明し、当の選手は参加リストから即抹消。コーチはヨット界から追放となった。理由は自分と自国の名誉を著しく傷つけたこと。

OP 級であるから年齢は 15 才以下であろう。子供に甘い現代の日本では考えられない厳しさであり、君が代にも国旗にも敬意を表さない人が多数存在する日本では考えられない国家意識に注目すべき事件であり、国際競技に出場するコーチ・選手には「日本の名誉」を背負ってもらいたいと思う。

(2) 1988 ソウルオリンピック フィン級 ローレンス・ルミュー(カナダ)は、強風下で風下を走っていた艇が転覆し、選手が艇の中に閉じ込められたのを認め、風下にベアして選手を救助して救命ボートに引き渡してからレースに復帰した。救助前は2位だったが、そのレースは23位であつた。帆走委員会はローレンス・ルミューのスポーツマンシップを讃え、そのレースの着順を2位とした。

筆者は若い頃フィン級で2度の国体を経験しているが、強風下で他艇の救助は考えられない神技である。このカナダの選手の技倆と勇氣に驚くばかりである。

(3) 2005(?) 全国高校ラグビー決勝 19 点のリードで勝負が見えた試合終了直前に、リードした東海大仰星は左ウィングに足を引きずった選手を入れた。準々決勝で足首脱臼骨折の重傷を負った選手のために最後の数分間でもピッチに立たせてやりたいチームの思いだった。

監督は「教育の一環」と云った。

しかし相手チームの東福岡はどう思ったか、確かにこの選手をかばって守りが手薄になった隙について、この日唯一のトライをあげた。果たして粘りのトライとして東福岡は素直に受け取れたのか?

この選手が集団に巻き込まれたらという怪我への心配もあつたろう。相手チームへの配慮を一切欠いたこの選手交代を監督・コーチ・レフリーそして高校生にもなった本人の誰もが止められなかったことに、暗然とするばかりである。しかもこの処置を友情の美談として論じたスポーツ記者がいたことは、あきれるばかりである。

(4) 2010.6 米国大リーグ公式試合 タイガースのガララーガ投手は 9 回 2 死まで走者を許さずあと一人になった。大リーグ史上 20 回しか記録がない完全試合目前である。「最後の打者」は内野ゴロ、誰しもアウトを信じたが、まさかの「セーフ」。録画では明らかな誤審。塁審には観衆も翌日の新聞も大非難の嵐。翌日、泣きながら近づく審判の肩を抱いて、ガララーガ投手は「完全な人間はいない。」と云って握手を交わしたという。スポーツマンシップの鑑であろう。

スポーツマンシップに関する美談・醜話は読者諸氏も沢山もっておられよう。子供たちの人格育成に効ある話を沢山してあげて欲しい。そして勝利至上主義、記録至上主義に走る保護者へも、更に指導者・コーチ自身の自戒のためにも考え続けることを願っている。

目次 (前号に掲載) 1. 小澤吉太郎先生とジュニアヨット 2. 小澤先生の指導理念とは 3. 「スポーツ概念」の変質 4. 勝利至上主義の罨 5. 競技規則の取扱い (今回掲載) 6. 厄介なプロテスト制度 7. 公認指導員制度について 8. 小論文の中の気懸りな言葉 9. スポーツマンシップとシーマンシップ (次号に掲載) 10. 指導者・コーチに期待すること 11. クラブの成立ちと指導者の関係 12. まとめ
--

JJYU NOTICE BOARD

■リオ・オリンピック セーリング日本代表選手団壮行会



平成28年7月1日、帝国ホテルにおいて、リオ・オリンピックのセーリング日本代表選手、7種目11名の壮行会が開催されました。ジュニアヨットクラブ出身の吉田愛選手(旧姓近藤愛)、土居一斗選手、土居愛実選手(兄妹)が出場するため、JJYUの役員も多数応援に参加しました。JSAF名誉総裁の高円宮妃久子殿下もご臨席、激励のお言葉を頂き、皆さんで記念写真を撮りました。

■公益財団法人日本セーリング連盟定期表彰

公益財団法人日本セーリング連盟では毎年定期表彰を各加盟団体の受賞候補者推薦を受けて審査の上で表彰を実施しています。平成27年度定期表彰受賞候補者として、JJYU推薦の2氏の受賞が決定し、平成28年1月23日開催の全国加盟団体代表者会議の場において表彰式が行われました。

功績賞●香野俊一氏

松島ジュニアヨットクラブ設立者、同クラブ副会長

優秀指導者賞●島田重司氏

小樽ヨット少年団設立者、元代表者



■連盟会長表彰

平成27年度より施行することとした連盟会長表彰制度に基づき、当連盟の定款に定める目的及び事業に照らしその業績が顕著な下記3名の方々を選出し、平成28年6月11日に浜松町の島嶼会館にて表彰式を執行了いました。写真は表彰式終了後の懇親会での一枚です。

山口史雄／共和ジュニアヨットクラブ代表者

笹森俊夫／浅虫ジュニアヨットクラブ代表者

大西和彦／隠岐ジュニアヨットクラブ代表者



■公認指導員制度の改定と活用をお願い 指導育成委員会より

JJYUの公認指導員制度に関しては、本号の特集・連載記事の中で、安井副会長が詳述しております。昭和60年、JJYUの前身の日本少年ヨット連盟時代に制定され、改定されながら今日に至っていますが、運用はやや形骸化し、機能が低下してきている現状にあります。

指導員の育成・認定をすることは、JJYUの活動理念の根幹であり、必須な業務であります。

そこで、現状の運用を再構築し、活性化を図る目的で「公認指導員認定に関する細則」を、下記の通り一部変更します。多くの方々が、公認指導員に認定されることを期待しております。

- ①JJYU主催大会やその他機会に行う指導者研修会に参加し、所定の申請書を提出した者を認定。
- ②新任・更新の手続きは、本人が直接JJYUに申請することが出来る。(必ずしもクラブ代表者を經由する必要はない。)
- ③広報誌「ユースセーリング」に公認指導員名簿を掲載。
- ④公認指導員は、JJYUが主催する大会などのクラブの責任者として取り扱われるほか、大会等の運営に参加協力することが出来る。
- ⑤特典として、広報誌「ユースセーリング」が無料配布される。

●公認指導員(平成29年1月末現在、JJYU役員(理事、委員)25名を除く)

所属クラブ	氏名	有効期限
夢の島ヨットクラブ	山本武、渡辺隆宏、小村孝、近藤哲弘、篠宮和明	平成30年3月末
ちょっとヨット ジュニアヨットクラブ	小高優果、野中秀樹、小宮航、野中祐樹、鈴木雄介	平成30年3月末
琵琶湖ジュニア セーリングスクール	増田佳久、増田俊子、赤松賢介、赤松由布子、高山剛希、高山亜希子、結城浩司、神原里佳、坂本絵梨、佐々木友彦	平成30年3月末
江東区ヨット連盟 ジュニアヨットクラブ	阿部喬、野口秋男、青木秀二、滝川宗一、滝川和男	平成31年3月末
横浜ジュニア ヨットクラブ	渡辺浩一	平成31年3月末
藤沢市青少年 セーリングクラブ	榎原和久	平成31年3月末

Youth Sailing No.85

●レイアウトデザイン 有限会社 オフィスルナ

●印刷・製本 有限会社 サムネク

●編集委員会 連絡先

一般社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

ユースセーリング編集委員長 岸野寛 副委員長 葛西信一

〒251-0033

神奈川県藤沢市片瀬山5-26-1

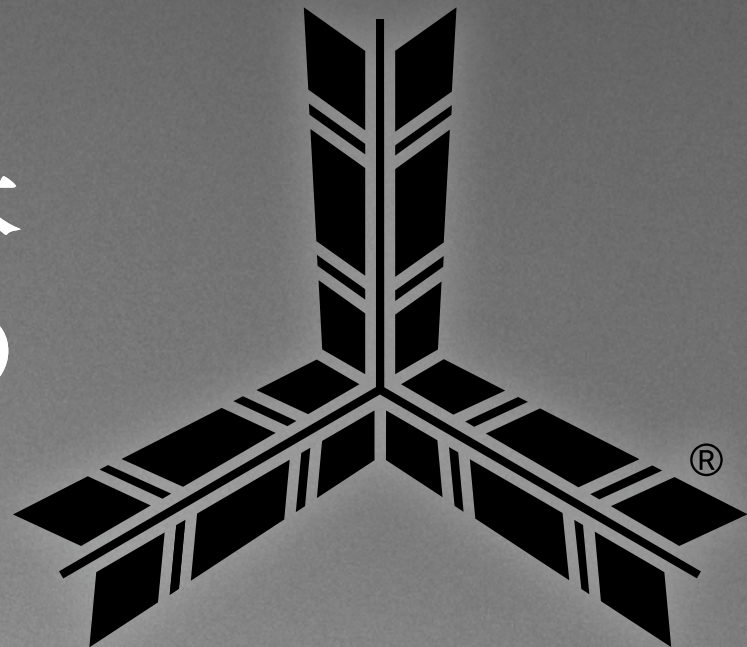
TEL: 090-9002-6913

e-mail: kishino.h@gmail.com

その感動を、わかちあう。

Asahi
SOFT DRINKS

日本の
澄みきった
サイダー。



<三ツ矢サイダーの約束>

- ・磨かれた水をつかう。
- ・果実由来の香りをいかす。
- ・非加熱製法。

三ツ矢サイダーは保存料を一切使っておりません



のんだあとはリサイクル

アサヒ飲料株式会社



スポーツくじ



スポーツは育てることができる。

スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

